

2020/11/14 土

14:00開演 [13:15開場]

青山音楽記念館 バロックザール

SAT. 14TH NOV. 2020 14:00 @BAROCKSAAL

TOKYO  
OPERA  
CITY

NISSAY

ナチュラルホルンと  
モダンホルンの二刀流で臨む、  
地元、京都での初リサイタル!

# 岸上 穰 ホルン

Jo Kishigami, Horn

遠藤直子 | ピアノ\*

Naoko Endo, Piano

加藤宏隆 | バスバリトン\*\*

Hiroataka Kato, Bass baritone

©Ayane Shindo

J. S. バッハ / 大橋晃一編 《管弦楽組曲第2番》ロ短調 BWV1067から「序曲」「サラバンド」「メヌエット」「パディヌリ」\*  
J.S. Bach / arr. by K. Ohtsuki "Overture", "Sarabande", "Minuet" and "Badinerie" from *Orchestral Suite in B minor, BWV1067*

J. S. バッハ / コダーイ編 チェロとピアノのための3つのコラール前奏曲\*  
J.S. Bach / arr. by Z. Kodaly 3 Chorale Preludes for cello and piano

J. S. バッハ 《ミサ曲》ロ短調 BWV232から「主のみ聖なり」\*/\*\*  
J.S. Bach "Quoniam tu solus sanctus", from *Mass in B minor, BWV232*

シャブリエ ラルゲット\*  
E. Chabrier *Larghetto*

池辺晋一郎 ホルンは怒り、しかし歌う (2003)  
S. Ikebe *A Horn Gets Angry, yet He Sings (2003)*

ベルゲ ホルンの呼び声 (ホルン・ロック) (1972)  
S. Berge *Horn Call (Horn-locks) (1972)*

ナッセン ホルン協奏曲 op. 28 (1994)\*  
O. Kraussen *Horn Concerto, op.28 (1994)*

チケット料金：¥3,000 (全席指定・税込)

8月20日(木) 一般発売

青山音楽記念館バロックザール：075-393-0011

エラート音楽事務所：075-751-0617

チケットぴあ：0570-02-9999 (Pコード：184-201)

ローソンチケット：0570-000-407 (Lコード：52022)

- 曲目、出演者等は、変更になる場合がございますのでご了承ください。
- 就学前のお子様のご入場はご遠慮ください。
- 演奏者とのご面会、花束などの受け渡しにつきましてはご遠慮ください。
- ネットオークション等での営利目的の転売はお断りします。

お問い合わせ先

エラート音楽事務所

075-751-0617

<https://erato.musical.to/wpi/>

東京オペラシティ文化財団  
03-5353-0770



NISSAY MUSIC GALLERY  
東京オペラシティ リサイタル シリーズ  
TOKYO OPERA CITY RECITAL SERIES

B → C  
ベートーヴェン

バッハから  
コンテンポラリーへ

# Jo Kishigami Horn

"B to C" from Bach to Contemporary music is the monthly recital series presented by Tokyo Opera City Cultural Foundation. 10 musical instruments should be picked up in a year, except July and August, and a unique or unusual instrument can be included. One piece of Bach and one piece of contemporary composer should be included in the programme, and other pieces are left to each player's choice.



青山音楽記念館 バロックザール  
〒615-8282 京都市西京区松尾大利町9-1  
TEL: 075-393-0011  
受付時間: 9:30~18:00  
休館日: 月曜日・火曜日  
<https://www.barocksaal.com/>  
ご来館の際は公共の交通機関をご利用ください。

「B → C (ベートーヴェン | バッハからコンテンポラリーへ)」とは、実力ある若手日本人演奏家が、「B」=バッハ作品と「C」=現代曲を軸に、独自のプログラムを組みリサイタル・シリーズ。

1998年のスタートから既に220回を超え、東京オペラシティの名物企画として、常に音楽ファンの注目を集めています。若きアーティスト達の才気溢れる個性と音楽性を大胆に浮き彫りにする人気シリーズを京都で初開催。更なる出会いの場を広げています。

高校生の時に聴いたロシアのオーケストラ、そのホルンセクションに衝撃を受けてプロの道を意識したという岸上穰は、ドイツの歌劇場オケを経て、2009年から東京都交響楽団ホルン奏者として活躍しています。東京では2回目、地元・京都では初のリサイタルとなる今回、彼は「つなぐホルン」をテーマに、現代のホルンとハイデンやモーツァルトの時代から1800年代中頃まで主流だったナチュラルホルンを使い分け、名だたる作曲家達の心をとらえたホルンの音色の魅力と歴史の流れに焦点をあてます。

シリーズ必須のバッハは盛りだくさん。そのうち《短調ミサ》のアリアはシャブリエ作品と同様ナチュラルホルンによる演奏です。そして彼が「ホルンでB → Cを表現するのに不可欠な曲」と語るシャブリエの《ラルゲット》が発表された1875年当時は、ナチュラルホルンと現在主流のバルブホルンが混在していた、いわば過渡期。歴史の流れを意識しつつ、当時のフランスで愛されていた音色をお届けします。

後半はユニークなタイトルの池辺作品、ノルウェーの民俗音楽がモチーフとなり、幅広い音域が要求される《ホルンの呼び声》、1994年にバリー・タックウェルの独奏で都響が世界初演した、イギリスの作曲家ナッセンの《ホルン協奏曲》ピアノ伴奏版を。楽器自体の技術革新が進んだことで広がった音楽の“自由”、それを限りなく表現できる作品を…と選んだ3曲です。

## PROFILE

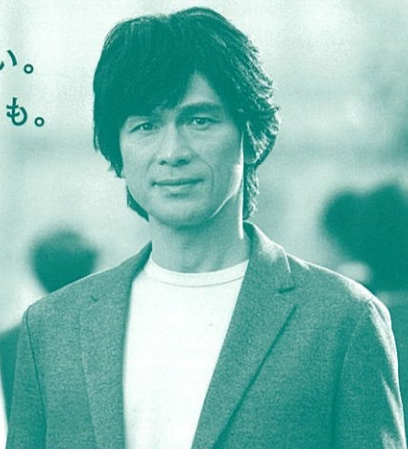
### 岸上 穰

ホルン  
Jo Kishigami, Horn



1985年生まれ、京都府向日市出身。12歳よりホルンを始め、京都市立音楽高校(現:京都堀川音楽高校)を経て、東京藝術大学を安宅賞、アカンサス音楽賞を受賞し卒業。フランクフルト音楽・舞台芸術大学を首席で卒業。第23回日本管打楽器コンクールホルン部門第1位。第80回日本音楽コンクール第2位。これまでにソリストとして東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、藝大フィルハーモニア、レ・シエクル、東京都交響楽団など国内外のオーケストラと共演。小澤征爾音楽塾VII・VIII、サイトウ・キネン・フェスティバル、プラハの春国際音楽祭に参加。Travel Brass Quintet、Brass Ensemble ZERO、つの笛集団、東京シンフォニエッタ、The Horn Quartet各メンバー。デトモルト国立歌劇場研修生、ヴァースバーデン・ヘッセン州立歌劇場契約団員を経て、2009年より東京都交響楽団ホルン奏者。

認知症は他人事ではない。  
もちろんこの僕にとっても。



日本生命  
NISSAY

そのことを恐れるのではなく、正しく備えるために。

ニッセイ **みらいのカタチ** 新登場

認知症サポート プラス

認知症保障保険